

日本ゲノム編集学会第9回大会 最優秀ポスター賞・優秀ポスター賞

本大会では62題のポスター発表がありました。ポスター賞に応募された演題のうち3題を最優秀ポスター賞、8題を優秀ポスター賞に選定し、最終日の閉会式にて表彰いたしました。

受賞演題および受賞者のコメントを紹介いたします。



■受賞者コメント(演題番号順)

最優秀ポスター賞(3件)

P-22 森永 隼(東大院理)

新規 Cas12m3 の機能構造解析

この度はポスター最優秀賞に選出していただき、誠にありがとうございます。

今大会では数々の刺激的な発表を拝聴し、大きな学びを得ることができました。そのような中で、多くの先生方からお声掛けいただき、こうした栄えある賞を頂戴できたことを、恐縮ながら大変嬉しく思います。最後に、伊川大会長をはじめとする今大会運営関係者の皆様、ならびに日々ご指導をいただいている皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

P-23 主藤裕太郎(東京大・院生命理学)

Prime editor による pegRNA 依存性逆転写の構造基盤

この度は、数ある研究の中からこのような栄誉ある賞に選出頂きましたこと大変嬉しく思います。濡木教授をはじめ共著者の皆様、研究活動を支援して下さった全ての方々、そして伊川大会長をはじめ大会関係者の皆様にこの場を借りて深く感謝申し上げます。ゲノム編集に携わる皆様と過ごした3日間は非常に刺激的で学びの多い時間でした。この経験を糧に、ゲノム編集分野の発展に少しでも寄与できるように今後も精進してまいります。

P-30 三上夏輝(筑波大・ヒューマンバイオロジー学位 プログラム)

ScKiP 法を用いた心機能を制御する新規 RNA 結合タンパクの *in vivo* スクリーニング

この度はポスター賞にご選出いただき、誠にありがとうございます。このような賞をいただけたのも水野先生をはじめとした研究室の皆様、動物資源センターの皆様のおかげでございます。学会中にいただいた多くのご指導と受賞を励みにこれからより一層研究活動に精進いたします。

優秀ポスター賞(8件)

P-2 中谷勇輝(大阪大学大学院基礎工学研究科)

細胞内小器官移行型 RNA 編集ツールの開発及び RNA 編集効率の評価

この度、優秀ポスター賞をいただき大変嬉しく思います。私は学会自体初めての参加でしたが、多くの方との交流、そして様々な気づきがあり、私の中で非常に濃い経験となりました。これも日頃から恵まれた環境を準備し指導して下さる鈴木先生を始めとする研究室の方々のおかげです。この賞を励みにこれからも一生懸命研究に取り組んでいきたいと思っております。ありがとうございました。

P-16 原田武志(アンジェス株式会社)

“OMNI テクノロジープラットフォーム”あらゆる遺伝子をターゲット可能なゲノム編集技術

この度、ゲノム編集学会でポスター賞を受賞できたことを大変光栄に思います。選考委員の先生方、並びに発表を聞いてくださった皆様に改めて感謝申し上げます。この成果は、素晴らしい同僚たちの支えと協力のおかげです。これからも OMNI プラットフォーム技術の臨床応用を通じて、ゲノム編集のさらなる発展に貢献できるよう努力してまいります。

P-19 Xiaoyan Ren(京都大学 iPS 細胞研究所, 京都大学医学部)

Cleavage protection: dCas9 achieves precision gene editing at repetitive regions

I am deeply honored to receive the Poster Award. The repetitive regions in the human genome remain poorly understood and highly polymorphic. This study generates VNTR variants while maintaining an isogenic background, providing an efficient method to explore these regions. I am grateful for this recognition and extend my sincere thanks to my PI, lab members, and the Japanese Society for Genome Editing.

P-27 杉山 健(京都大学 大学院農学研究科)

Prime editing の特異性向上に資する逆転写酵素の改良

この度は優秀ポスター賞という栄誉ある賞を賜り大変光栄に存じます。大会長の伊川正人先生をはじめ、選考委員の先生方に深謝申し上げます。また当グループの佐久間哲史特定教授、共同研究をさせていただいた住友化学株式会社の吉間忠彦様、ならびにご助力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。今回の受賞を励みとし、ゲノム編集技術の発展の一助となれるよう努めてまいります。

P-28 丹羽 諒(京都大・iPS 研, 京都大・院医)

Screening of pegRNA design in human iPS cells using laboratory automation and predictions

この度のポスター賞受賞を大変光栄に存じます。本研究では、プライム編集技術の最適化に取り組み、精密なゲノム編集の実現に挑戦しています。本研究が遺伝性疾患の治療や理解に少しでも貢献できると大変嬉しく思います。今回の受賞を糧に、さらなる技術革新を目指し、邁進して参ります。ご指導くださった先生方、共同研究者の皆様、そして学会関係者の方々に深謝申し上げます。

P-44 野口光央(自治医大・先端医療)

ROSA26 遺伝子座を標的とした AAV ベクターによるノックインブタの作出

この度は優秀ポスターをいただきまして誠にありがとうございます。「ノックインブタを作出する」というシンプルなテーマですが、皆様の前で発表できるまで様々な苦

労がありました。共同研究者の皆様、自治医科大学・先端医療技術開発センターの方々に感謝の気持ちで一杯です。ブタの研究に全力で取り組める環境に身を置き、常に挑戦し続ける毎日が財産となっています。これからも沢山の成果を出せるように頑張りたいと思います。

P-49 小林智子(広島大学 統合生命科学研究科)

自然免疫の強化は高病原性鳥インフルエンザウイルスに対抗できるか

私は、大学入学前の2016年に広島大学でありました一遺伝子工学の創出から革新的ゲノム編集へーという公開シンポジウムに参加させて頂きました。その時にゲノム編集は、素晴らしい技術だと感銘を受けました。ですから、このような賞を頂けたことは夢のようです。

これも、温かくご指導くださった先生方、研究室のメンバー、そしてニワトリたちのお陰です。

これからも、ゲノム編集技術を活用して人や動物の命を守ることにつながるような研究を続けていきたいと思っています。

P-57 人見祐基(国際医療研セ)

Prime Editor を活用した免疫疾患原因バリエーションの同定

この度は、日本ゲノム編集学会第9回大会優秀ポスター賞にご選出いただき、大変光栄に存じます。伊川先生をはじめとする大会運営に関わられた先生方、選考委員の先生方、および、本研究における共同研究者の先生方に、深く感謝申し上げます。この賞を励みにして、ゲノム編集を活用した疾患関連バリエーションの研究に今後も精進し、研究分野の発展に貢献したいと考えております。